



タイトル「**2023年度危機管理学部(公開用)**」、フォルダ「**危機管理学部**」
シラバスの詳細は以下となります。



科目ナンバー	RMGT2601S		
科目名	基礎ゼミ		
担当教員	工藤 聡一		
対象学年	2年,3年,4年	開講学期	前期
曜日・時限	火 3		
講義室	1005	単位区分	必
授業形態	演習・ゼミナール	単位数	2
科目大分類	専門		
科目中分類	専門基幹		
科目小分類	専門統合・演習		
科目の位置付け（開発能力）	<p>■DPコード：学修のゴールを示すディプロマポリシー（DP）との関連</p> <p>DP1-E〔学識・専門技能〕 専門分野にかかる理論知と実践知を獲得し利用することができる。</p> <p>DP4-F〔探究力・課題解決力〕 問を設定し又は論点を特定し、それに対する答・結論・判断を合理的に導くために、論拠の収集と分析を体系的に行うとともに、オープンエンドな問題・課題に答えるための方略をデザインし、検証し実行することができる。</p> <p>DP3-H〔論理的思考力・批判的思考力〕 理路整然とした思考を備えつつ、偏りを排除するための内省をもって、問題・課題を合理的に解決することができる。</p> <p>DP4-I〔理解力・分析力〕 文章表現、数値データを適切に扱いつつ、情報の収集と取捨選択、分析と加工を有効かつ円滑に行い、課題の解決につなげることができる。</p> <p>DP6-K〔表現力・対話力〕 文章及び口頭で、自らの考えを的確に表現し、他者に過不足なく伝達することができる。</p> <p>■CRコード：学修を通じて開発するマインドセット・ナレッジ・スキルを示すコモンルーブリック（CR）との関連</p> <p>E1 学識と専門技能（30%）</p> <p>F1 探究力・課題解決力（20%）</p> <p>H1 論理的思考力（10%）</p> <p>H2 批判的思考力（10%）</p> <p>I1 理解力・分析力（10%）</p> <p>K1 ライティング・コミュニケーション（10%）</p> <p>K2 オーラル・コミュニケーション（10%）</p>		
教員の実務経験	ありません。		
成績ターゲット区分	<p>■能力開発の目標ステージとの対応</p> <p>2 進行期 ～ 3 発展期</p>		
科目概要・キーワード	<p>危機管理に関する多様な研究分野の中から、学生個人がそれぞれ1つの研究テーマを構築するために必要な、危機管理学に関する基礎的な演習を行います。専門基幹科目における法学系科目や専門展開科目における災害マネジメント、パブリックセキュリティ、グローバルセキュリティ、情報セキュリティの各領域の危機管理系科目を担当する教員が、それぞれの研究分野における研究の手法について指導します。ここでの学びが、2年次後学期以降のゼミナール・危機管理特殊研究でのより専門的な研究活動への橋渡しの意味をもちます。本演習では、学術研究におけるテーマ決定や研究計画を中心に扱います。</p> <p>授業は演習形式によります。なお、授業を補完・代替するためにオンライン授業（オンデマンド型またはライブ配信型）を取り入れる場合があります。</p> <p>■キーワード： 法学、危機管理、研究テーマの構築、ゼミナールへの橋渡し、研究計画</p>		

授業の趣旨	<p>■副題 国際航空法の窓から、危機管理をながめてみよう。</p> <p>■授業の目的 民商法、国際法、刑法等の複合分野である国際航空法を題材として、危機管理に関する研究テーマの探求、研究手法の修得、研究成果の発表の各過程を通じて、探求力・課題解決力、学識、理解力、論理的思考、表現力等を養うことを目的とします。</p> <p>■授業のポイント 専門基幹科目における法学系科目や専門展開科目における学修内容を踏まえ、国際航空法の考究のための方法論、研究手法について指導します。学生の関心の多様性を考慮し、国際航空法の諸問題のうち、パブリックセキュリティ、グローバルセキュリティ及び情報セキュリティの3つの専門領域にまたがる問題を提示する、「航空テロ対策とプライバシーの対立」を考察の中心にすえます。文献の検索、整理や分析からはじめて、研究を進め、その成果をプレゼンテーション、ディベートによって表現することまでを行います。</p>								
総合到達目標	<p>■旺盛な関心をもって危機管理学及びそれを支える諸科学における重要問題を探求し、これを科学的な手法によって分析することができる。</p> <p>■資料・文献等研究素材を論理的に解釈して知見を見出すとともに、その成果を適切に表現することができる。</p>								
成績評価方法	<p>■授業参加度 15回 (70%) (評価の観点) 個人研究やグループ研究に積極的に参加し研究上の役割・分担を適切にこなすとともに、研究活動を通じて専門知識を高め、探究力や論理性を発揮しているかどうかをみます。 (フィードバックの方法) 演習の過程で随時コメントします。</p> <p>■実技・パフォーマンス 1回 (30%) (評価の観点) レポートやプレゼンテーションのフォーマットを理解し、それらを通じて研究成果を表現できているかどうかをみます。 (フィードバックの方法) レポートの作成・提出、プレゼンテーションの準備・発表の過程で随時コメントします。</p>								
履修条件	特にありません。								
履修上の注意点	研究活動に主体的に参加することが求められます。								
授業内容	<p>本欄記載事項の主語は原則として皆さんです。よく読んで準備をし、主体性をもって、授業に臨みましょう。</p> <table border="1" data-bbox="464 1155 1489 2157"> <thead> <tr> <th data-bbox="464 1155 517 1200">回</th> <th data-bbox="517 1155 1489 1200">内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="464 1200 517 1536">1</td> <td data-bbox="517 1200 1489 1536"> ①授業テーマ ガイダンス ②授業概要 授業目的及び半年間15回の授業の流れを理解する。(E1,F1,H1,H2,I1,K1,K2) ③予習(120分) テキスト『新航空法講義』を通読し、「国際航空法」に含まれる公法上、私法上の問題を概観する。 ④復習(120分) silm(三軒茶屋ラーニング・イニシアティブ・マニュアル)の適用ループリックのコンピテンシーを概観する。 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="464 1536 517 1839">2</td> <td data-bbox="517 1536 1489 1839"> ①授業テーマ 国際航空法のフレームワーク(1)シカゴ条約体制 ②授業概要 国際航空法における1944年シカゴ条約の意義を確認する。(E1,F1,H1,H2,I1,K1,K2) ③予習(120分) 『国際条約集』等で、シカゴ条約の体系を概観する。 ④復習(120分) テキスト『新航空法講義』第2章及び第3章を精読する。 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="464 1839 517 2157">3</td> <td data-bbox="517 1839 1489 2157"> ①授業テーマ 国際航空法のフレームワーク(2)ワルソー・モンリオール条約体制 ②授業概要 国際航空法における1929年ワルソー条約(改正議定書、補完非政府間協定を含む)及び1999年モンリオール条約の意義を確認する。(E1,F1,H1,H2,I1,K1,K2) ③予習(120分) 『国際条約集』等で、モンリオール条約の体系を概観する。 ④復習(120分) テキスト『新航空法講義』第5章を精読する。 </td> </tr> </tbody> </table>	回	内容	1	①授業テーマ ガイダンス ②授業概要 授業目的及び半年間15回の授業の流れを理解する。(E1,F1,H1,H2,I1,K1,K2) ③予習(120分) テキスト『新航空法講義』を通読し、「国際航空法」に含まれる公法上、私法上の問題を概観する。 ④復習(120分) silm(三軒茶屋ラーニング・イニシアティブ・マニュアル)の適用ループリックのコンピテンシーを概観する。	2	①授業テーマ 国際航空法のフレームワーク(1)シカゴ条約体制 ②授業概要 国際航空法における1944年シカゴ条約の意義を確認する。(E1,F1,H1,H2,I1,K1,K2) ③予習(120分) 『国際条約集』等で、シカゴ条約の体系を概観する。 ④復習(120分) テキスト『新航空法講義』第2章及び第3章を精読する。	3	①授業テーマ 国際航空法のフレームワーク(2)ワルソー・モンリオール条約体制 ②授業概要 国際航空法における1929年ワルソー条約(改正議定書、補完非政府間協定を含む)及び1999年モンリオール条約の意義を確認する。(E1,F1,H1,H2,I1,K1,K2) ③予習(120分) 『国際条約集』等で、モンリオール条約の体系を概観する。 ④復習(120分) テキスト『新航空法講義』第5章を精読する。
回	内容								
1	①授業テーマ ガイダンス ②授業概要 授業目的及び半年間15回の授業の流れを理解する。(E1,F1,H1,H2,I1,K1,K2) ③予習(120分) テキスト『新航空法講義』を通読し、「国際航空法」に含まれる公法上、私法上の問題を概観する。 ④復習(120分) silm(三軒茶屋ラーニング・イニシアティブ・マニュアル)の適用ループリックのコンピテンシーを概観する。								
2	①授業テーマ 国際航空法のフレームワーク(1)シカゴ条約体制 ②授業概要 国際航空法における1944年シカゴ条約の意義を確認する。(E1,F1,H1,H2,I1,K1,K2) ③予習(120分) 『国際条約集』等で、シカゴ条約の体系を概観する。 ④復習(120分) テキスト『新航空法講義』第2章及び第3章を精読する。								
3	①授業テーマ 国際航空法のフレームワーク(2)ワルソー・モンリオール条約体制 ②授業概要 国際航空法における1929年ワルソー条約(改正議定書、補完非政府間協定を含む)及び1999年モンリオール条約の意義を確認する。(E1,F1,H1,H2,I1,K1,K2) ③予習(120分) 『国際条約集』等で、モンリオール条約の体系を概観する。 ④復習(120分) テキスト『新航空法講義』第5章を精読する。								

4	<p>①授業テーマ 国際航空法のフレームワーク（3）ローマ条約体制</p> <p>②授業概要 国際航空法における1933年ローマ条約・2009年モントリオール条約（航空地上損害賠償条約）の意義を確認する。（E1,F1,H1,H2,I1,K1,K2）</p> <p>③予習（120分） http://109.168.120.21/siti/Unidroit/index/pdf/XIV-3-0676.pdf で、2009年モントリオール条約（一般リスク、テロリスク両条約）の内容を概観する。</p> <p>④復習（120分） テキスト『新航空法講義』第6章を精読する。</p>
5	<p>①授業テーマ 航空テロ対策の歴史（1）機内犯罪からハイジャックへ</p> <p>②授業概要 航空犯罪及び航空テロのエスカレートの歴史と、国際社会の条約レベルでの対応を跡付ける。（E1,F1,H1,H2,I1,K1,K2）</p> <p>③予習（120分） テキスト『新航空法講義』第4章を精読する。</p> <p>④復習（120分） グラフィック・オーガナイザー「3 エントリ・ジャーナル」で、航空テロとテロ対策の変遷を整理する。</p>
6	<p>①授業テーマ 航空テロ対策の歴史（2）ハイジャックから航空テロへ</p> <p>②授業概要 9. 1 1 アメリカ同時多発テロの発生態様を確認する。（E1,F1,H1,H2,I1,K1,K2）</p> <p>③予習（120分） https://www.9-11commission.gov/report/911Report.pdf 等から、9.11アメリカ同時多発テロの手口を確認する。</p> <p>④復習（120分） グラフィック・オーガナイザー「プレイヤー・モデル」で、航空旅客プロファイリングの意義と課題を整理する。</p>
7	<p>①授業テーマ 航空テロ対策の歴史（3）航空テロから9. 1 1 へ</p> <p>②授業概要 9. 1 1 同時多発テロ後における、国際社会の条約レベルの対応と、実態レベルの対応とを確認する。（E1,F1,H1,H2,I1,K1,K2）</p> <p>③予習（120分） http://www.mlit.go.jp/kikikanri/seisakutokatsu_terro_tk_000001.html 等から、9. 1 1 後のテロ対策の広がりを検討する。</p> <p>④復習（120分） グラフィック・オーガナイザー「5 ステップ・アウトライン・オーガナイザー」で、航空テロ対策におけるプロファイリングの要否を検討する。</p>
8	<p>①授業テーマ 航空テロ対策の現状と課題（1）</p> <p>②授業概要 航空犯罪ないし航空テロのエスカレートに伴い必要となったテロ対策の重層化の内容を確認し、グループ単位でレポートを作成する。（E1,F1,H1,H2,I1,K1,K2）</p> <p>③予習（120分） https://www.rikkyo.ac.jp/about/activities/fd/qo9edr0000005dbr-att/MasterofWriting.pdf 等を参照して、レポートのフォーマットと作成上のルールを確認する。</p> <p>④復習（120分） グループ単位で検討したシナリオに従い、個人での執筆作業を進める。</p>
9	<p>①授業テーマ 航空テロ対策の現状と課題（2）</p> <p>②授業概要 航空犯罪ないし航空テロのエスカレートに伴い必要となったテロ対策の重層化の内容を確認し、グループ単位でレポートを作成する。（E1,F1,H1,H2,I1,K1,K2）</p> <p>③予習（120分） https://ci.nii.ac.jp/ 等で必要な文献を検索し、現物を入手する。</p> <p>④復習（120分） グループ単位で検討したシナリオに従い、個人での執筆作業を進める。</p>

10	<p>①授業テーマ 航空テロ対策の現状と課題（3）</p> <p>②授業概要 航空犯罪ないし航空テロのエスカレートに伴い必要となったテロ対策の重層化の内容を確認し、グループ単位でレポートを作成する。（E1,F1,H1,H2,I1,K1,K2）</p> <p>③予習（120分） https://ci.nii.ac.jp/ 等で必要な文献を検索し、現物を入手する。</p> <p>④復習（120分） グループ単位で検討したシナリオに従い、個人での執筆作業を進める。</p>
11	<p>①授業テーマ 航空テロ対策の現状と課題（4）</p> <p>②授業概要 航空犯罪ないし航空テロのエスカレートに伴い必要となったテロ対策の重層化の内容を確認し、グループ単位でレポートを作成する。（E1,F1,H1,H2,I1,K1,K2）</p> <p>③予習（120分） https://ci.nii.ac.jp/ 等で必要な文献を検索し、現物を入手する。</p> <p>④復習（120分） グループ単位で検討したシナリオに従い、個人での執筆作業を進める。</p>
12	<p>①授業テーマ ディベート準備（シナリオ）</p> <p>②授業概要 航空テロ対策を「有効性」と「許容性」の観点から分析し、特定のテロ対策技術の当否についてディベートを行う。（E1,F1,H1,H2,I1,K1,K2）</p> <p>ディベートに引き続いて、講評を行います。</p> <p>③予習（120分） http://nade.jp/koshien/rule/index（別表2）に基づくディベートフォーマットを確認する。</p> <p>④復習（120分） 準備過程で確認されたディベート進行上の課題を解消する。</p>
13	<p>①授業テーマ ディベート・リハーサル</p> <p>②授業概要 航空テロ対策を「有効性」と「許容性」の観点から分析し、特定のテロ対策技術の当否についてディベートを行う。（E1,F1,H1,H2,I1,K1,K2）</p> <p>ディベートに引き続いて、講評を行います。</p> <p>③予習（120分） レポート課題を通じて得た知見をもとに、ディベートの立論、質疑、反駁のフォーマットに従ったシナリオを準備する。</p> <p>④復習（120分） リハーサルで確認されたディベート進行上の課題を解消する。</p>
14	<p>①授業テーマ ディベート</p> <p>②授業概要 航空テロ対策を「有効性」と「許容性」の観点から分析し、特定のテロ対策技術の当否についてディベートを行う。（E1,F1,H1,H2,I1,K1,K2）</p> <p>ディベートに引き続いて、講評を行います。</p> <p>③予習（120分） レポート課題を通じて得た知見をもとに、ディベートの立論、質疑、反駁のフォーマットに従ったシナリオを完成させる。</p> <p>④復習（120分） ディベートを通じて、①探求力・課題解決力、②学識・専門技能、③論理的思考力・批判的思考力、④理解力・分析力、⑤表現力・対話力のうちのどの能力どのように開発されたか、セルフ・アセスメントを行う。</p>
15	<p>①授業テーマ サマリー</p> <p>②授業概要 15週の授業を振り返り、slim（三軒茶屋ラーニング・イニシアティブ・マニュアル）所載のコンピテンシーの充足度を確認する。（E1,F1,H1,H2,I1,K1,K2）</p> <p>③予習（120分） slim（三軒茶屋ラーニング・イニシアティブ・マニュアル）所載の適用ルーブリックを確認する。</p> <p>④復習（120分）</p>

	本演習におけるグループ学修、プレゼンテーション、ディベートを通じて得た汎用的能力を自己評価する。
関連科目	①演習系科目としては、「自主創造の基礎1・2 (RMGT1215, 1216)」・「危機管理基礎演習Ⅱ (RMGT2602)」・「ゼミナールⅠ～Ⅳ (RMGT4601～4604)」・「危機管理特殊研究1～4 (RMGT4611～4614)」と関連します。特に「ゼミナールⅠ～Ⅳ」への橋渡しの意味をもちます。②講義科目については、「インテリジェンス概論 (RMGT1305)」、「プライバシーと法 (RMGT3472)」、「テロ対策論 (RMGT3528)」、「運輸保安 (RMGT3533)」、「国際法 (RMGT3451)」及び「国際テロリズム論 (RMGT3558)」と関連します。
教科書	<ul style="list-style-type: none"> ■藤田勝利編『新航空法講義』(信山社, 2007年) ■グラフィック・オーガナイザー (①新しい知識と既存の知識との関連付けのためのものとして、フォームA (KWLチャート (1) 個人用)、フォームB (KWLチャート (2) グループ用)、フォームC (KWLHAQチャート)。②新しい知識の入力・活用に関するものとして、フォームD (3エントリー・ジャーナル)、フォームE (STOP & JOTワークシート)、フォームF (VENNDiagram)、フォームG (FRAYERモデル)。③知識の出力 (表現) に関するものとして、フォームH (TRACオーガナイザー)、フォームI (5ステップ・アウトライン・オーガナイザー) の計9種) のうちから、該当フォームを、授業共有ファイルからダウンロードして持参してください。
参考書・参考URL	<p>マギル大学航空宇宙法研究センターHP : https://www.mcgill.ca/iasl/centre/research</p> <p>国際民間航空機関HP : https://www.icao.int/Security/Pages/default.aspx</p> <p>国際航空運送協会HP : http://www.iata.org/whatwedo/security/Pages/index.aspx</p> <p>その他、授業時間中に指示します。</p>
連絡先・オフィスアワー	<ul style="list-style-type: none"> ■連絡先 開講時に告知します。 ■オフィスアワー 金曜4限。それ以外の時間については、メール等で事前にアポイントメントをとることにより研究室で対応します。
研究比率	<ul style="list-style-type: none"> ■危機管理領域との対応 災害マネジメント10% ; パブリックセキュリティ30% ; グローバルセキュリティ30% ; 情報セキュリティ30% ■危機管理学と法学とのバランス 危機管理学60% : 法学40%

